

大豆近況 VOL.142

団体会員
一般会員
賛助会員
協賛企業

各位

関係部署にご回覧ください。

令和2年9月4日
一般財団法人 全国豆腐連合会
代表理事 齊藤 靖弘
相談役 郷 和平

「大豆近況」をお届け致します。是非、ご活用下さい。

○北米産大豆

米国農務省が8月17日に発表した、2020/2021年度の米国大豆需給予想によりますと、単収見込が53.3ブッシェル/エーカーと前月から増加したことで、生産高が前回比7%増の1億2,042万トンに上方修正されました。需要量は搾油と輸出がそれぞれ増加したことで2.3%増となりましたが、供給量の増加が上回り、期末在庫は1,659万トン(在庫率13.7%)と大幅に上方修正されました。また、世界の大豆生産予想は、米国、インド、EUの増加を受けて前回比2.2%増の3億7,040万トンに上方修正されております。

なお、同省が8月24日に発表した、8月23日現在の米国主要生産州での着サヤ率は92%(前年76%、平年87%)、落葉率は4%(前年2%、平年4%)といずれも前年を上回って推移しております。一方、米国大豆作柄概況では、主要生産州の平均で優良14%(前年9%)、良好55%(前年46%)と優良と良好を合わせて69%となっており、引き続き前年を大きく上回って推移しております。今後も平穏な天候と順調な生育が期待されます。

8月のシカゴ相場は、期近9月限が\$8.90/ブッシェル付近から始まりました。序盤は米国産大豆の豊作観測を受けて下落傾向で推移し、\$8.65/ブッシェル付近まで下落しました。しかし、その後は中国による米国産大豆の順調な買付けや特にアイオワ州で猛威を振るった暴風雨による作柄後退懸念から急速に買い進められ、ほぼ一本調子に上昇致しました。終盤にかけても中国産大豆の不作懸念も手伝ってか中国による買付けが続いたことや、米国産地での乾燥懸念を受けて上昇を続けました。8月31日現在、期近9月限が\$9.50/ブッシェル付近で推移しております。

8月の円相場は、1ドル=105.81円付近から始まりました。序盤から中盤にかけては米国の好調な雇用統計やトランプ大統領による追加経済対策に関する大統領令により米国景気後退懸念が後退し、ドル買いが優勢な展開でした。その後も米国での新型コロナウイルスのワクチン

開発期待を巡り米国の景気回復ペースが早まるとの期待から再びドル高優勢となりました。しかし、8月28日に安倍総理大臣の辞任が発表されると日本の金融緩和政策や財政政策の先行き不透明感から一転して円が買われる展開となり、8月31日現在、1ドル=105.60円付近で推移しております。

○国産大豆

このほど、5月末基準での令和2年産国産大豆の生産計画が発表されました。それによりますと、全農と全集連を合わせた令和2年産大豆の作付面積は前年比1%減の11万8,194haと微減予想、集荷予定数量は前年産が天候被害で16万トン台に大幅減産されたため、前年実績比16%増の19万1,274トンと大幅な増加予測となっております。

令和2年産大豆の各地の生育状況の聞き取りをしたところ、北海道・青森・宮城・新潟では概ね順調に進捗しております。一方、秋田・山形では8月中旬の大雨の影響を受けて、一部で浸水被害や湿害の発生が見られました。豪雨災害の影響が心配された九州地方につきましては、播種前の豪雨であったため、直接的な被害は無かったものの播種開始は遅れているようです。その後の天候は比較的良好なため、現時点での生育は比較的順調とみられております。しかし、全ての圃場で播種を完了できたかどうかや播種遅れの影響等が未確認のため、未だ順調と判断するのは時期尚早と思われます。茨城・栃木等の北関東では、長梅雨の影響で大幅に播種が遅れ、一部では8月に入ってから播種もあったとのこと。それでも播種しきれなかった圃場もあると思われ、その影響が心配されます。

一部を除いては大産地の生育が順調なため、前述の生産計画通りとまではいかないまでも、今のところ比較的順調に集荷できるのではと思われます。3年連続不作はなんとしても回避したいため、今後の平穏な天候と遅れのある産地での回復に期待したいところです。

以上

